

の交流促進などを支援することにより、ノーマライゼーションの社会づくりに努めます。

斎場の整備については、都市計画変更の手続きに着手するとともに、地元との合意形成に向けた取り組みを継続します。

「活力」

広域通信単位制「ウイザスナビ高等学校」と誘致協定を締結しました。同校は、スクーリング会場の西日本の拠点施設として旧大谷小学校を選定したものです。本市への経済の波及効

果も多いことが予想されるため、市としても良きパートナーとしての責任を果たすため、これを積極的に推進します。

また、氷ノ山の名水を販売しようとする会社が、水源調査を行っているのですが、氷ノ山の知名度の向上や雇用創出の場として大きな役割を担うものであり、ぜひとも実現を願うものであります。この他にも、養父市での事業展開を検討する企業もあるため、誘致に向けて積極的にセールス活動を行い、実現に向けて努力します。

農業については、安全・安心を根底に据え、消費者ニーズに応えるとともに、畜産との連携により資源循環型農業への転換を図らなければなりません。また、「道の駅ようか」や豊富な経験を有する「フルーツの里」などでの販売を通して、生産者の皆さんも消費動向を把握されていると思います。これを発展させていただき、「養父市ブランド」の誕生を願います。

有害鳥獣対策、農業の担い手確保の対策、冬場の産物を確保するため、ビニールハウス設置の助成などを継続します。さらに、

水稲や野菜の減農薬栽培を奨励し、荒廃する農地の保全を共同で取り組む地域を支援する「農地・水・農村環境保全向上対策事業」を、国・県・市で新たに取り組み、今後5年間間で実施します。

畜産振興は、優良繁殖和牛の確保を奨励するとともに、耕畜連携を図る有機の里づくりを目指し、30鈴の堆肥利用実証ほ場を設定し、その利用の促進を図ります。

農業基盤整備においては、中山間地域総合整備事業などにより、西谷農道、万久里農道、万々谷集落道、高柳上集落道、小佐農道舗装、四田谷池整備、宿南町集落排水路等に取り組みます。また、条件不利な農地を保全する中山間地域等直接支払交付金についても23集落で実施を予定し、国土の管理に不可欠とされる地籍調査は、新たに6地区を対象に事業を実施します。

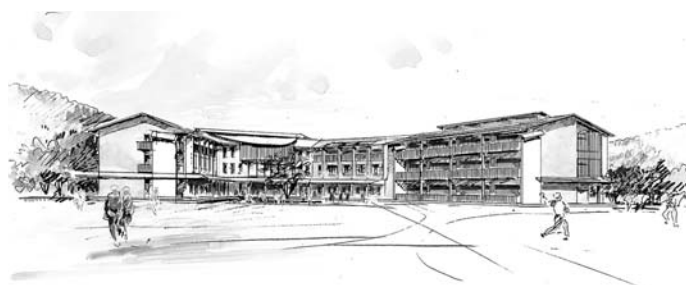
林業の振興については、広域基幹林道・須留ヶ峰線の延伸、松くい虫・カシノナガクイムシの駆除などを行いながら、養父市森林組合との連携のもとに進めます。

商工業の振興は、地元企業の支援・育成を図るため、養父市商工会との連携のもとに「企業支援センター」の機能充実と養父市の産業振興のあり方を方向づける「養父市まちづくり計画」を策定します。また、新規創業の開業資金や企業の育成を行うため、兵庫県信用保証協会とタイアップした融資事業も継続します。

観光振興は、観光協会が大きな力となり取り組んでいただいています。市内協議会での連携強化を図りながら、交流型産業として活性化につながる支援を行います。さらに、スキー場関連業者への暖冬対策利子補給制度を設定します。

若者の育成については、八鹿・青浜両中学校の統合に向けた校舎の建設に本格的に着工します。平成22年4月の開校を目指し、現在、建築整備委員会で教育効果を高める施設づくりや地域との連携などについて審議していただいています。多額の経費がかかるものであり、将来に悔いを残さない立派な校舎を建設します。

児童生徒の遠距離通学の助成



統合中学校の完成予想図

については、市内全域において標準化します。概ね2キロ遠からバスや自転車通学する児童や生徒に対するもので、小学校でバス通学者570人、中学校でバス・自転車通学者661人が対象になります。これは、児童や生徒の通学の負担軽減のみならず、犯罪から守る大きな方策となるものと確信しています。

小学校では、自然や人とのふれあいを学習する自然学校の推進や、「いきいき学校応援事業」、「ふるさと文化いきいき教室」、

単位制高等学校誘致調印



▶広域通信単位制「ウイザスナビ高校」と誘致協定を締結